



パフォーマンス・メモリー

CVP-87/85/83には、フロッピー・ディスクに自分の演奏を録音／再生できるパフォーマンス・メモリーがあります。パフォーマンス・メモリーには、10個のトラックとリズムトラックが用意されており、10種類の楽器の演奏をパート別に重ねて録音して、ひとつの曲として仕上げることができます。

このようにしてできたものをソングと言い、1枚のフロッピー・ディスクに60ソングまで保存しておくことができます(1ソングのデータが大きい場合は、60ソングより少なくなってしまうこともあります)。

ここでは、ソングとして仕上げるための録音方法や、覚えておくと便利な編集方法について説明します。

ソングの構成について.....	64
演奏を録音／再生する.....	64
ABC／ソロ・スタイルプレイで録音する.....	66
コード・シーケンスで録音する.....	68
多重録音をする.....	70
フロッピー・ディスクの編集.....	72
・同じディスク内でソングをコピーする.....	72
・別のディスクにソングをコピーする.....	74
・ソングを消去する.....	76
録音／再生のヒント.....	77



ソングの構成について

パフォーマンス・メモリーで録音して作ることができるソングの構成例を示しておきます。

1曲(1ソング)の構成例		
ピアノ(右手メロディ)パート	トラック 1	ライト/1トラック [RIGHT/1TR] ボタンに対応
ピアノ(左手メロディ)パート	2	レフト/2トラック [LEFT/2TR] ボタンに対応
ベースパート	3	オーケストラ/3-10トラック [ORCH/3-10TR] ボタンに対応
ストリングパート	4	
ギターパート	5	
ブラスパート	6	
フルートパート	7	リズム [RHYTHM] ボタンに対応
〇〇〇パート	8	
〇〇〇パート	9	
〇〇〇パート	10	
リズムパート	15	

トラックごとに何のパートを入れるかは、自由に決めることができます。
リズムは、15トラックに固定です。

演奏を録音／再生する

はじめに 1トラックだけの録音／再生をしてみましょう。

1 フォーマット済みのディスクを入れる

フォーマット済みのディスクを差し込みます。

[SONG SELECT] のランプがつきます。すでにディスクが入っていて、[SONG SELECT] のランプがついていないときは、ボタンを押してランプをつけます。

■ フォーマットされていないディスクを入れた場合…

「For」が表示されます。61ページの方法でフォーマットしてください。

③ VOICE

① 3.5" DISK

⑤ ⑥ ⑦ START/STOP

② SONG NUMBER

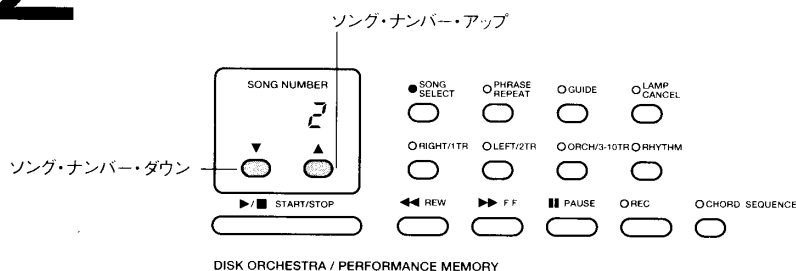
④ REC



2 録音するソング・ナンバーを選ぶ

ソング・ナンバー

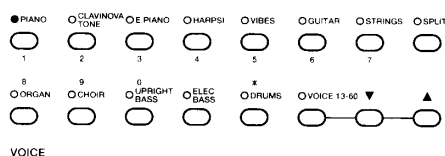
SONG NUMBER[▼][▲]でソング・ナンバーを選びます。



3 音色を選ぶ

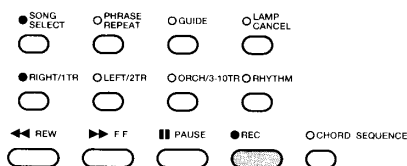
ボイス

VOICEボタンで、録音する音色を選びます。



4 録音する

レコード

[REC]を押して、ランプをつけます。このとき同時に
ライト/1トラックのランプも赤色につきます。

演奏を始めると、録音が始まります。

スタート/ストップ

[▶/■]START/STOPを押して録音を始めることもできます。

5 録音をストップする

スタート/ストップ

[▶/■]START/STOPか[REC]を押します。

■ちょっと気をつけて…

[RIGHT/1TR][LEFT/2TR][ORCH/3-10TR][RHYTHM]のどれかのランプが緑色でついている場合は、すでにデータが録音されています。別のソング・ナンバーを選ぶか、76ページの方法で演奏データを消してから録音してください。

■[REC]を押したあと…

ディスプレイにディスクの記憶残容量が表示されます。単位はkbyte(キロバイト)で、何も録音されていないときは約700kbyteです(およそ50,000音分ですが、機能をたくさん使うと減ります)。また、記憶残容量がなくなると「FUL」の表示になります。

700~FUL

■メトロノームにあわせて録音するとき…

1.音色を選んだあと、[METRONOME]を押し、TEMPO[▲][▼]でテンポを指定します。

2.[REC]を押して、ランプをつけます。

3.鍵盤の演奏と同時に録音が始まります。(このとき、メトロノーム音は録音されません。)

■リズムといっしょに録音するとき…

1.音色を選んだあと、スタイルを選び、TEMPO[▲][▼]でテンポを指定します。

2.[REC]を押してランプをつけたあと、[RHYTHM]を押して[RHYTHM]と[RIGHT/1TR]のランプが赤色についていることを確認します。このとき、メトロノーム音が鳴ります。

3.鍵盤の演奏と同時に録音が始まります。

■録音が終わったあと…

「rEc」が表示されている間は、ディスクにデータが書き込まれています。書き込みが終わると、録音したパートのランプが緑色に変わり、再生スタンバイになります。

■ディスクを入れていないとき…

短い曲であればそのまま本体に録音することができます(最大約1600音符[16kbyte]ですが、機能をたくさん使うと減ります)。ただし、電源を切ったり別の曲が読み込まれた時点で消えてしまいます。(パフォーマンス・メモリーのディスクを入れて[SONG SELECT]を押したり、「ディスク・オーケストラ・コレクション」「ディスク・スタイル」「ピアノ・ブレイヤ・ソフト」のディスクを入れたりした場合、本体に録音した曲は消えてしまいます。)

保存しておきたい場合は[COPY]を押して「c0」を表示させたあとディスクを入れ、73ページの手順4以降にしたがってください。



■再生中に...

- スタイルやテンポを変えることができます。
- [REW] [FF] [PAUSE]の操作ができます。
- 再生音に合わせて、好きな音色で演奏することができます。
(再生音色は変えることはできません。)

6 再生する

[▶/■ START/STOP]を押して曲をスタートします。

7 再生をストップする

[▶/■ START/STOP]を押します。
曲の最後までくると自動的に止まります。

ABC / ソロ・スタイルプレイで録音する

ABCやソロ・スタイルプレイなど、CVP-87/85/83の多彩な演奏機能を使って録音してみましょう。

1 フォーマット済みのディスクを入れる

フォーマット済みのディスクを差し込みます。

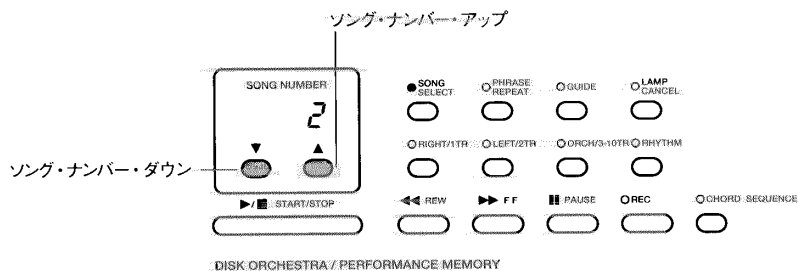
ソング・セレクト

[SONG SELECT]のランプがつきます。すでにディスクが入っていて、[SONG SELECT]のランプがついていないときは、ボタンを押してランプをつけます。

2 録音するソング・ナンバーを選ぶ

ソング・ナンバー

SONG NUMBER[▼][▲]でソング・ナンバーを選びます。



■フォーマットされていないディスクを入れた場合...

「For」が表示されます。61ページの方法でフォーマットしてください。

■ちょっと気をつけて...

[RIGHT/1TR][LEFT/2TR][ORCH/3-10TR][RHYTHM]のどれかのランプが緑色についている場合は、すでにデータが録音されています。別のソング・ナンバーを選ぶか、76ページの方法で演奏データを消してから録音してください。

5 AUTO BASS CHORD

3 STYLE, TEMPO, VOICE

1 3.5" DISK

6 7 START/STOP

2 SONG NUMBER

4 REC

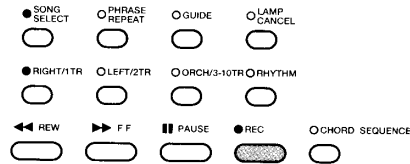


3 音色、伴奏スタイルを決める

演奏する音色、伴奏スタイルを選んで、テンポを指定します。

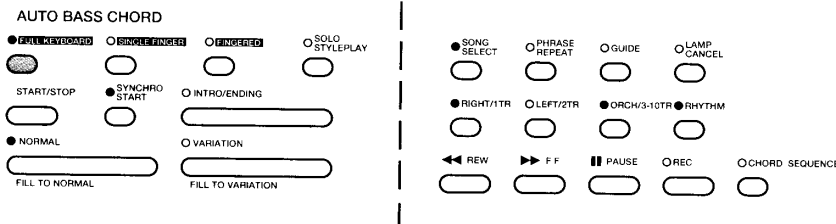
4 録音の準備をする

レコード [REC] を押して、ランプをつけます。このとき同時に ライト/1トラック [RIGHT/1TR] のランプも赤色につきます。



5 ABCの種類を選ぶ

フル・キーボード [FULL KEYBOARD] シングル・フィンガー [SINGLE FINGER] フィンガード [FINGERED] のどれかを押します。このときメトロノームが鳴りだし、オーケストラ/3-10トラック [ORCH/3-10TR] リズム [RHYTHM] のランプが赤色につきます。



ソロ・スタイルプレイ ソロ・スタイルプレイを使うときは[Solo STYLE PLAY]を押してランプをつけ、[SINGLE FINGER]か[FINGERED]を選んでください。フルキーボードABCではソロ・スタイルプレイを使えません。ソロ・スタイルプレイのパートは11～14トラックに録音されます。

6 録音する

演奏を始めると、録音が始まります。リズムを先にスタートさせたい場合は、スタート/ストップ [▶/■ START/STOP] を押します。

7 録音をストップする

[▶/■ START/STOP] か [REC] を押します。

■「ディスク・スタイル」を使うとき…
録音用のフロッピーディスクを入れる前に[DISK STYLE 1]か[DISK STYLE 2]に記憶させておいてください。(P44)

■ちょっと覚えておこう…
[RIGHT/1TR][LEFT/2TR][ORCH/3-10TR][RHYTHM]すべてのランプを消すことはできません。

■トラック構成は…

1トラックに手弾きパート、3～10トラックにABCパート、リズム・トラックにリズム・パートが録音されます。

2トラックを選んで、2トラックに手弾きパートを録音することもできます。

■バックアップだけを録音する方法1…
[RIGHT/1TR][LEFT/2TR]のランプを消しておけば、バックアップだけ録音することができます。

■バックアップだけを録音する方法2…
コード・シーケンス (P68) を使うと、ステップ・バイ・ステップで録音することができます。

■イントロをつけるとき…

演奏を始める前に[INTRO/ENDING]を押しておけば、イントロ・パターンから録音することができます。

■フィル・インを入れるとき…

演奏の途中で[FILL TO NORMAL] [FILL TO VARIATION]を押してフィル・インを入れると、演奏にメリハリがつきます。

■エンディング・パターンで終わるとき…

[INTRO/ENDING]を押すと、エンディング・パターンを演奏したあと、自動的にストップします。

■ABCで録音したデータを再生するときの音量調節について…
ABCの各パートの音量を、[RHYTHM] [CHORD 1] [CHORD 2] [BASS] のボリューム・コントロールで調節できます。



コード・シーケンスで録音する

■コード・シーケンスだけの録音では…

1枚のディスクに最大55曲まで録音できます。

■フォーマットされていないディスクを入れた場合…

「For」が表示されます。61ページの方法でフォーマットしてください。

■ちょっと気をつけて…

[RIGHT/1TR][LEFT/2TR][ORCH/3-10TR][RHYTHM]のどれかのランプが緑色についている場合は、すでにデータが録音されています。別のソング・ナンバーを選ぶか、76ページの方法で演奏データを消してから録音してください。

■「ディスク・スタイル」を使うとき…

録音用のフロッピー・ディスクを入れる前に[DISKSTYLE1]か[DISK STYLE2]に使うスタイルを記憶させておいてください。(P44)

コード・シーケンスを使ってバックギングを録音してみましょう。
リズムに合わせて弾かなくても、楽譜を見ながら1小節または1拍ずつステップ・バイ・ステップで録音できます。

1 フォーマット済みのディスクを入れる

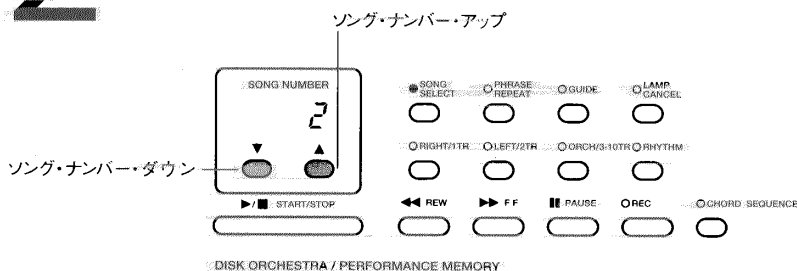
フォーマット済みのディスクを差し込みます。

[SONG SELECT]のランプがつかます。すでにディスクが入っていて、[SONG SELECT]のランプがついていないときは、ボタンを押してランプをつけます。

2 録音するソング・ナンバーを選ぶ

ソング・ナンバー

SONG NUMBER[▼][▲]でソング・ナンバーを選びます。



3 スタイルを選ぶ

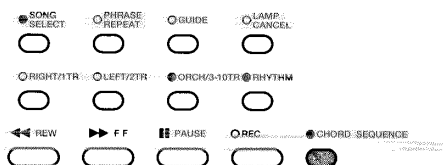
スタイルを選び、再生するときのテンポもここで指定しておきます。

4 コード・シーケンスを選ぶ

コード・シーケンス

[CHORD SEQUENCE]を押してランプをつけます。このとき同時に[ORCH/3-10TR] [RHYTHM]のランプも赤色につきます。

このとき、ABCが選ばれていなかった場合とフルキーボードABCだった場合は、[FINGERED]のランプが自動的につかます。



シングル・フィンガーで録音したい場合は、[SINGLE FINGER]を押してランプをつけます。

5 6

3 STYLE

1 3.5" DISK

2 SONG NUMBER

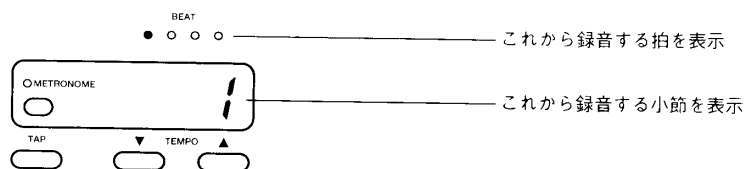
4 7 CHORD SEQUENCE



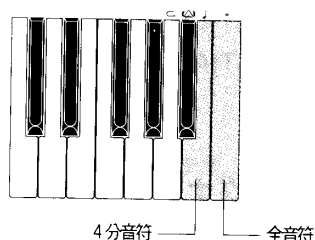
5

コードを録音する

TEMPOディスプレイに小節、"BEAT"に拍が表示されています。



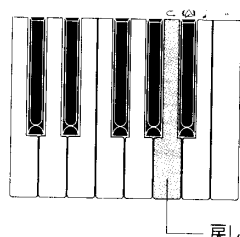
左手(低音部)でコードを押さえたまま、右手で全音符(○)＝右端の鍵盤、4分音符(♪)＝右端から2番目の鍵盤を指定して録音します。



6

間違いを直す

[戻し]の鍵盤を押すごとに1拍前に戻ります。



小節、拍の表示を見ながら間違えたところまで戻って、録音をやり直します。

7

録音を終わる

[CHORD SEQUENCE]を押します。

録音したシーケンス・データがパフォーマンス・メモリーに変換されて、ディスクに保存されます。

■曲の途中で伴奏スタイルを変更するとき...

変更したい場所のコードを録音する前に、スタイル、テンポ、フィル・インなどを指定しておきます。

■2分音符を録音するとき...

4分音符の鍵盤を続けて2回押します。

■3拍子のスタイルを選んでいるとき...

○(全音符)を押すと、1小節分(♩=3拍分)進みます。

■リズムだけ録音するとき...

3-10トラックのバックアップを録音せずに、リズムだけ録音したい場合は、左手のコードを押さえずにノーマル・バリエーション、フィル、イントロ、エンディングなどをセットして、4分音符または全音符の鍵盤だけを指定していきます([FINGERED]または[SINGLE FINGERED]のランプを消してから録音することもできます)。

■曲の途中から直したいとき...

1.曲を再生させ、直したい場所でポーズさせます。その後、[CHORD SEQUENCE]を押すと[ORCH/3-10TR] [RHYTHM]のランプがつきます。リズムだけ録音してある場合は[ORCH/3-10TR]のランプはつきません。

2.小節、拍を確認しながら、左手でコードを押さえて右手で4分音符または全音符鍵盤を指定して、最後まで録音してください。

3.最後まで録音したら[CHORD SEQUENCE]を押して終了します。

※コード・シーケンスのデータが入力されていないソングに対して、曲の途中からの直しを行おうとすると、SONG NUMBERディスプレイに「no」が表示され録音できません。



多重録音をする

パフォーマンス・メモリーでは、3-10トラックにも1,2トラックと同様に自分の演奏を録音することができます。

いろいろな楽器ごとにトラックを分け、録音することによって、ひとつの曲として仕上げる多重録音に挑戦してみましょう。

1トラックとリズム・トラックに録音する

はじめに、リズム・トラックと1トラックをいっしょに録音してみましょう。

1 フォーマット済みのディスクを入れる

フォーマット済みのディスクを差し込みます。

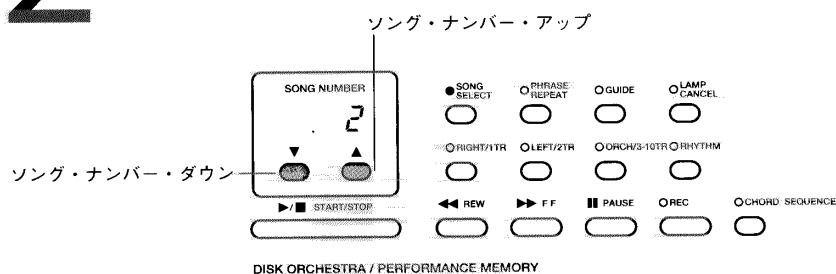
ソング・セレクト
[SONG SELECT]のランプがつきます。すでにディスクが入っていて、[SONG SELECT]のランプがついていないときは、ボタンを押してランプをつけます。

■フォーマットされていないフロッピーディスクを入れた場合…

「For」が表示されます。61ページの方法でフォーマットしてください。

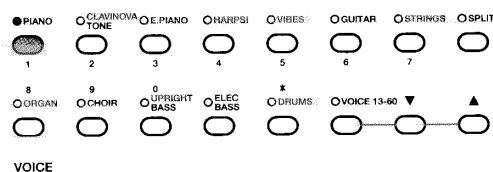
2 録音するソングナンバーを選ぶ

ソング・ナンバー
SONG NUMBER[▼][▲]でソング・ナンバーを選びます。



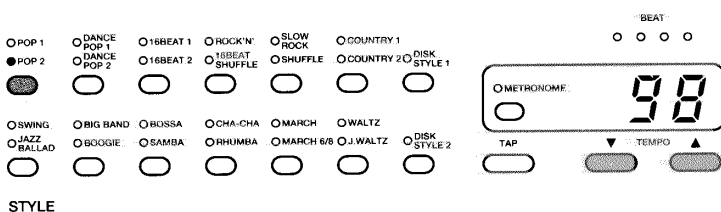
3 音色を選ぶ

音色ボタンで、演奏する音色を選びます。



4 スタイルとテンポを決める

スタイルを選び、テンポ TEMPO[▼][▲]でテンポを指定します。



⑥

④ STYLE, TEMPO

③ VOICE

① 3.5" DISK

⑦ START/STOP

② SONG NUMBER

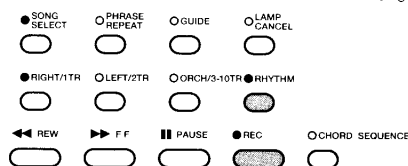
⑤ REC, RHYTHM



5 録音トラックを選ぶ

^{レコード} [REC]を押して、ランプをつけると、自動的に^{ライトノ1トラック} [RIGHT/1TR]のランプも赤色につきます。

さらに、リズム・トラックも録音するので^{リズム} [RHYTHM]を押してランプをつけます。この時メトロノームがなりだします。



6 録音する

メトロノームに合わせて演奏を始めると、メトロノーム音がスタイルのリズム演奏に変わり、録音が始まります。

■リズム演奏だけで録音を始めたいときは[▶/■ START/STOP]を押して録音をはじめます。

7 録音をストップする

^{スタート/ストップ} [▶/■ START/STOP]か[REC]を押します。

2トラックに録音する

今録音した1トラックとリズム・トラックの再生に合わせて、2トラックに録音してみましょう。

1 音色を選ぶ

音色ボタンで、演奏する音色を選びます。

2 録音トラックを選ぶ

^{レコード} [REC]を押したあと、^{レフト/2トラック} [LEFT/2TR]を押すとランプが赤色につきます。このとき、すでに録音されている^{ライトノ1トラック} [RIGHT/1TR] ^{リズム} [RHYTHM]は緑のランプがついていることを確認します。

3 録音する

メトロノームに合わせて演奏を始めると、録音が始まります。
[▶/■ START/STOP]を押して録音を始めると、再生音をききながら、途中から演奏を始めることができます。

4 録音をストップする

^{スタート/ストップ} [▶/■ START/STOP]か[REC]を押します。

■録音したトラックの再生をOFFにして別のトラックに録音するには…

再生OFFにしたいトラックのボタンを押して緑のランプを消してから、[REC]を押します

■演奏を間違えたとき…

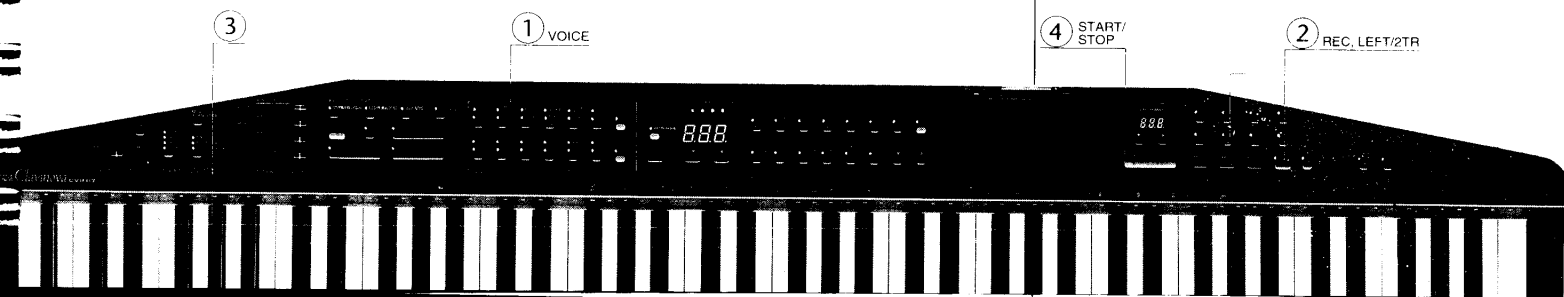
間違えたところから演奏を録音しなおすことができます（パンチ・イン・レコーディング）。詳しくは78ページを参照してください。

■バック・アップのお勧め…

ある程度データを録音したら、別のソングナンバーにコピーをとっておくことをお勧めします（コピーの操作については72ページを参照してください）。録音中に誤ってデータを消してしまったときでもバック・アップがあれば安心です。

■録音／再生のヒント…

録音／再生のいろいろなヒントが77ページにありますので、参考にしてください。





■トラックのデータを消したいとき…

[RHYTHM]以外のトラックは[▶]/[■] START/STOPで録音をスタートし、何もしないで録音をストップすると、そのトラックのデータを消すことができます。[RHYTHM]トラックは、オートアカンパニメントの[RHYTHM]ボリュームを0にして、同じ操作をすると消すことができます。

■モジュレーション、ピッチベンド、エクスプレッションのデータを録音するとき…

AUTO ACCOMPANIMENTのスライダーにこれらの機能を割り当てることができます。(→P85)

■記録される内容は…

初期値、および録音中に記録される内容については80ページを参照してください。

■再生時の音量調節について…

ABCを使わずに多重録音したデータを再生するとき、下記のトラックの割当てで音量を調節できます。

[RHYTHM]ボリューム・コントロール：リズム・トラック

[CHORD 1]ボリューム・コントロール：4～10トラック

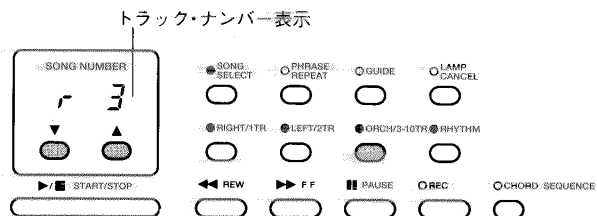
[CHORD 2]ボリューム・コントロール：1、2トラック

[BASS]ボリューム・コントロール：3トラック

3トラック以降に録音する

3トラック以降にも録音してみましょう

音色を選び、[REC]を押したあと、[ORCH/3-10TR]を押します。[ORCH/3-10TR]を押しているあいだ、SONG NUMBERディスプレイにトラック・ナンバーが表示されます。[ORCH/3-10TR]を押しながら[▲][▼]で録音するトラックを選びます。



DISK ORCHESTRA / PERFORMANCE MEMORY

1、2トラックと同様に録音していきます。

フロッピー・ディスクの編集

ソングをコピーしてバックアップをとっておくと、曲を一部変更したいときなど安心して作業が行えます。

また、録音している途中でもこまめにコピーをとってバックアップをしましょう。

同じディスク内でソングをコピーする

パフォーマンスメモリーで録音した曲を別のソングナンバーにコピーしてみましょう。

1 ディスクを入れる

2 コピー元の曲を選ぶ

SONG NUMBER[▼][▲]でコピー元の曲を選びます。

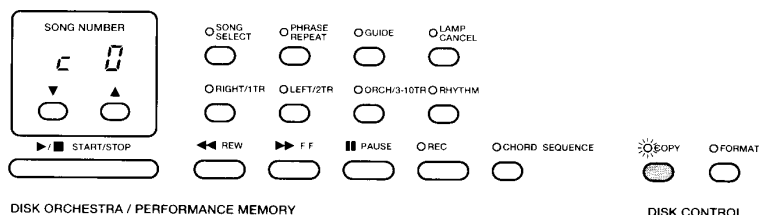




3

コピー
[COPY]を押す

[COPY]を押します。ランプが点滅して、「c0」が表示されます。



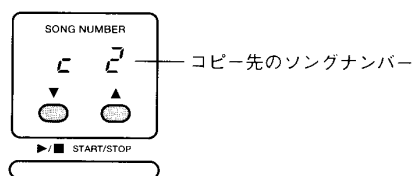
■コピー元の曲番号にデータがない場合…

[COPY]を押してもランプは消えたままとなり、コピー操作をすることはできません。

4

コピー先のソングナンバーを選ぶ

SONG NUMBER[▼][▲]でコピー先のソングナンバー（c1～c60）を選びます。



■「c」の上に「-」が表示されているとき…

別のディスクへコピーするときの番号です。[▼][▲]を押して「-」のついていないソングナンバーを選んでください。

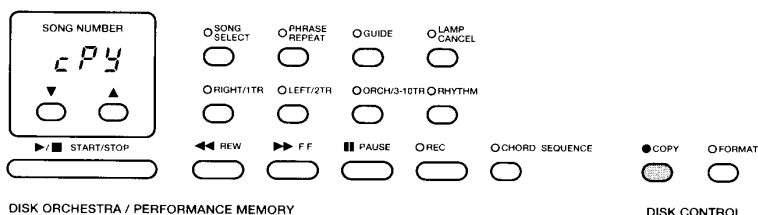
■コピーを途中で中止したいとき…

[▶/■] START/STOPを押します。ただしコピーの実行が始まってからは中止できません。

5

コピーを実行する

もう一度[COPY]を押します。ランプがつき、コピーが実行され「cPY」が表示されます。



コピーが終わると、[COPY]のランプが消えてコピー先のソングナンバーが表示されます。([SONG SELECT]のランプもつきます。)

■コピー先にすでにデータがあるとき…

「ny」が表示されます。書き換えてよい場合は、[▲](Yes)を押すとコピーが実行されます。書き換えたくない場合は、[▼](No)を押します。



別のディスクにソングをコピーする

パフォーマンスメモリーで録音した曲を別のディスクにコピーしてみましょう。

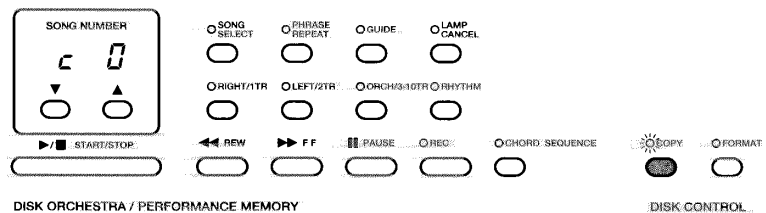
1 コピー元のディスクを入れる

2 コピー元の曲を選ぶ

ソング・ナンバー
SONG NUMBER[▼][▲]でコピー元の曲を選びます。

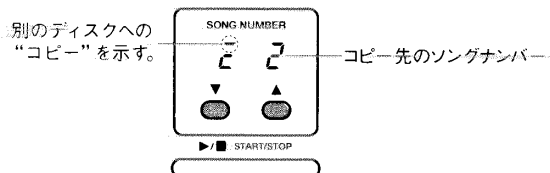
3 コピー [COPY]を押す

[COPY]を押します。ランプが点滅して、「c 0」が表示されます。



4 コピー先のソングナンバーを選ぶ

SONG NUMBER[▼][▲]でコピー先のソングナンバーを選びます。別ディスクへのコピーの場合は「c 1」～「c 60」(「c」の上に「-」がついた番号)の中から選びます。



■コピー元の曲番号にデータがない場合…

[COPY]を押してもランプは消えたままとなり、コピー操作をすることはできません。

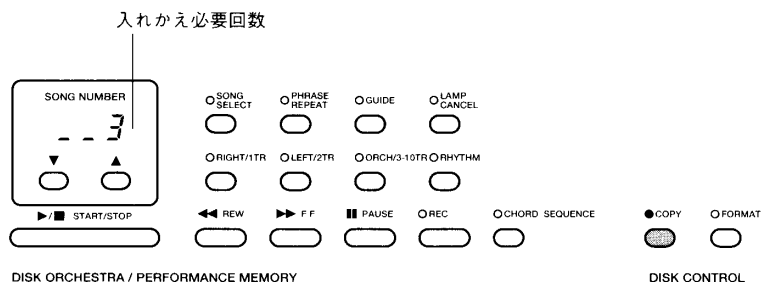
■コピーを途中で中止したいとき…

[▶/■ START/STOP]を押します。ただしコピーの実行が始まってからは中止できません。

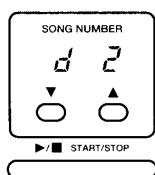


5 コピーを実行する

[COPY]を押します。ランプがつき、まず元ディスクのデータがク
ラビノーバ本体に読み込まれます。SONG NUMBERディスプレイ
には、このあとコピー先ディスクとコピー元ディスクを何回入
れかえる必要があるのかが表示されます。



データが読み込まれると「d2」と表示されますので、元ディスクを抜き
コピー先のフロッピーディスクを入れます。



コピー元とコピー先のディスクを交互に入れかえます。
「d1」が表示されたらコピー元のディスクを、「d2」が表示され
たらコピー先のディスクを入れます。入れかえ必要回数が0にな
ると「cPY」が表示されます。
コピーが終わると、[COPY]のランプが消えてコピー先のソングナ
ンバーが表示されます。(「SONG SELECT」のランプもつきます。)

■コピー先にすでにデータがある とき…

コピー先にすでにデータがあるときは
「ny」が表示されます。書き換えてよ
い場合は、[▲](Yes)を押すとコピーが
実行されます。
書き換えたくない場合は、[▼](No)を押
します。

■「ディスク・スタイル」をコピー するとき…

「ディスク・スタイル」も別のディスク
へコピーすることができます(1つの
ディスクに50スタイルまで)。ただ
し、パフォーマンス・メモリーのデ
ィスクやディスク・オーケストラ・コレ
クションをコピーしたディスクには
コピーできません。また逆に、パ
フォーマンス・メモリーのデータや
「ディスク・オーケストラ・コレク
ション」は、ディスク・スタイルのデー
タが入っているディスクにはコピーで
きません。

■「ディスク・オーケストラ・コレク ション」を使ったマイ・レパートリー づくり…

ディスク・オーケストラ・コレクションの曲はま
るごとコピーすることはできませんが、オー
ケストラ・パートと、リズム・パートだけ別の
ディスクにコピーすることができます。
コピーしたオーケストラ・パート、リズム・
パートの再生に合わせて自分の演奏を録
音し、マイ・レパートリーをつくること
ができます。詳しくは93ページを参照し
てください。なお、コピーしてつくった
マイ・レパートリーをさらに別のフロッ
ピーディスクにコピーすることはでき
ません。

■コピーできないディスクは…
「ピアノプレーヤ・ソフト」やスタン
ダードMIDIファイルのデータをコ
ピーすることはできません。また、
ライト・プロテクトされたディスク
へコピーすることはできません。



■ディスクを使わずに本体に録音した曲を消去するとき…

[MIDI/TRANPOSE]を押しながら[COPY]を押すとディスプレイに「ny」が表示されるので、消去してよい場合は、[▲](Yes)を押します。

■消去を途中で中止したいとき…

[▶/■] START/STOPを押します。ただし消去の実行が始まってからは中止できません。

■消去することのできないディスクは…

「ディスク・オーケストラ・コレクション」
「ピアノプレーヤ・ソフト」「ディスク・スタイル」およびライト・プロテクトされたディスクは消去することができません。

ソングを消去する

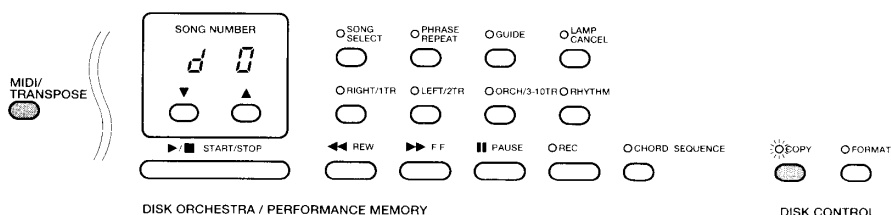
ディスク内の不要になった曲は消去することができます。

1 フロッピーディスクを入れる

消したい曲が入っているディスクを入れます。

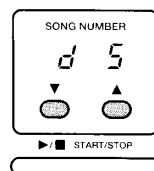
2 [MIDI/TRANPOSE]を押しながら[COPY]を押す。

[COPY]のランプが点滅して「d0」が表示されます。



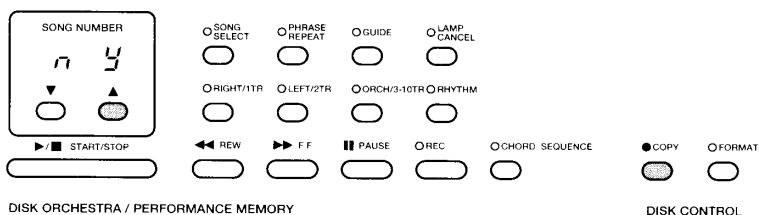
3 消したいソングナンバーを選ぶ

SONG NUMBER[▼][▲]で消したい曲を選びます。



4 消去を実行する

もう一度[COPY]を押します。「ny」が表示されるので、消去してよい場合は、[▲](Yes)を押します。



消去したくない場合は、[▼](No)を押します。

消去の実行中は[COPY]のランプがついて「dEL」が表示されます。

消去が終了すると[COPY]のランプが消えます。

2 MIDI/TRANPOSE

1 3.5" DISK

3 4 SONG NUMBER

2 4 COPY





録音／再生のヒント

パフォーマンスメモリーで曲を作るときに、覚えておく便利な機能を紹介します。

トラックごとのボリューム調節

録音が終わったあとで、トラックごとに別々にボリュームを調節して、トラック間のバランスを取り、これを初期値（曲の頭のデータ）として設定しておくことができます。

- 1 レイト [REC]を押してランプをつけます。
- 2 設定するトラックを選んで、録音をスタンバイします。
- 3 リズムトラックの場合は、オート・アコパニメント AUTO ACCOMPANIMENTのリズム RHYTHM ボリュームで、それ以外のトラックの場合は、ミッド・トランスポート [MIDI/TRANPOSE]を押しながらベース [BASS]ボリュームで設定します。
- 4 もう一度[REC]を押してランプを消すと、録音済みの曲の初期値が変更されます。

初期値の変更

録音が終わったあとで、ボリューム調節の他にも初期値を変更することができます。変更できる内容は80ページの「録音されるデータ内容」を参照してください。

- 1 レイト [REC]を押してランプをつけます。
- 2 変更するトラックを選んで、録音をスタンバイします。

■最初に録音した時の音量より大きくすることはできません。

■録音スタンバイ状態にした後で[▶/■ START/STOP]を押したり、鍵盤をさわったりしないように注意してください。録音したデータが消えてしまいます。

■各トラックごとのリバーブの深さの調整…

手順1.2のあと[REVERB]を押しながら、[BASS] ボリュームで設定します。
[REVERB]を押しながらTEMPO [▼] [▲]でそのソング全体のリバーブの深さを設定することもできます。





■ちょっと気をつけて…

リズム・トラック、ABC、ソロ・スタイル
プレイに関しては、パンチ・イン・レコー
ディングはできません。

■ちょっと気をつけて…

リズム・トラック、ABC、ソロ・スタイル
プレイに関しては、途中からデータを消
すことはできません。

3

変更したい初期値をパネルで操作します。

4

もう一度[REC]を押してランプを消すと、録音済みの曲の初期値が
変更されます。

録音を途中からやり直す(パンチ・イン・レコーディング)

演奏を間違えたりした場合でも、途中から録音をやり直すことができます。

1

[▶/■^{スタート/ストップ} START/STOP]で再生を始め録音をやり直したい場所の少し
手前で[PAUSE^{ポーズ}]を押して一時停止させます。

2

[REC^{レコード}]を押します。

3

やり直したいトラックを選びます。

4

[▶/■ START/STOP]で再生を始め、録音したいところからタイ
ミングを合わせて演奏を始め、最後まで演奏してください。

5

[▶/■ START/STOP]または[REC]を押して録音を終了します。

各トラックの途中からのデータの消し方

1. [▶/■ START/STOP]で再生を始め、消したいところでポーズさせます。
2. [REC] を押し、消したいトラックを選びます。
3. 消したいトラックのボタンを押しながら[▶/■ START/STOP]を押します。
4. もう一度[▶/■ START/STOP]を押せば完了します。



コード・シーケンスを使う

リズムに合わせた演奏に慣れていなかったり、コードをあまり知らない人でも、コード・シーケンスを使えば簡単に1曲のバックアップを完成させることができます。68ページを参照してください。

再生時に使える機能

パフォーマンス・メモリーの演奏でも、3～10トラックの個別の再生ON/OFF機能（P92参照）やガイド機能（P53参照）A-Bリピート機能（P57参照）が使えます。ガイド機能は、トラック1と2に有効です。

■録音したデータのクオンタイズについて…

どんなに演奏の上手な人でも、リズムにピッタリ合わせて演奏するのはなかなか難しいものです。

そこで、クオンタイズと言って録音したデータを設定した分解能に応じて、リズムにピッタリ合わせてくれる機能を使うことができます。→ 応用機能u6（P89）



録音されるデータ内容

トラックごとに記録されるデータ

■ボリュームとエクスプレッションは同じ操作となりますが、MIDIデータが異なります。

データ	初期値	録音中	録音後の 初期値変更	操作
押鍵情報	×	○	×	押鍵
音色	○	○	○	VOICEボタン／ [VOICE13-60]
デュアル音色	○	○	○	VOICEボタン+ {VOICEボタン／ [VOICE13-60]}
スプリット音色	○	○	○	[SPLIT] + {VOICEボタン／ [VOICE13-60]}
ボリューム	○	×	○	[MIDI/TRANPOSE] + [BASS] ボリューム (リズム・トラックは [RHYTHM] ボリューム)
エクスプレッション	×	○	×	[MIDI/TRANPOSE] + [BASS] ボリューム、 または [BASS] ボリューム (応用機能設定時)、 またはエクスプレッション・ペダル (CVP-87) (リズム・トラックは除く)
パン	○	○	○	[MIDI/TRANPOSE] + [RHYTHM] ボリューム
ダンパー・ペダル	○	○	○	ダンパー・ペダル
ソフト・ペダル	○	○	○	レフト・ペダル (ペダル機能をソフトに設定時)
ソステヌート・ペダル	×	○	×	ソステヌート・ペダル (CVP-87)、レフト・ペダル (ペダル機能をソステヌートに設定時)
モジュレーション	○	○	○	[RHYTHM] ボリューム (応用機能設定時)
ピッチ・ベンド	○	○	○	[CHORD1] / [CHORD2] (応用機能設定時)
リバーブの深さ	×	×	○	[REVERB] + [BASS] ボリューム
デュアル・バランス	○	○	○	VOICEボタン+ {VOICEボタン／ [VOICE13-60]} +TEMPO [▼] [▲]
スプリット・バランス	○	○	○	[SPLIT] +TEMPO [▼] [▲]

●[A] + [B] = [A]を押しながら[B]を操作する。

●[A] / [B] = [A]または[B]を操作する。



曲全体共通で記録されるデータ

データ	初期値	録音中	録音後の 初期値変更	操作
伴奏スタイルの種類	○	○	×	STYLEボタン、[DISK STYLE1または2]
リズム・ボリューム	○	○	○	[RHYTHM] ボリューム
リバーブの種類	○	○	○	[REVERB]
リバーブの深さ	○	○	○	[REVERB] + TEMPO [▼] [▲]
テンポ	○	○	○	TEMPO [▼] [▲]
イントロ	○	×	×	[INTRO/ENDING]
エンディング	×	○	×	[INTRO/ENDING]
フィルイン	○	○	×	[FILL TO NORMAL] / [FILL TO VARIATION]
ABCの種類	○	×	×	[SINGLE FINGER] / [FINGERED] / [FULL KEYBOARD]
ABCボリューム	○	○	○	[CHORD1] ボリューム、[CHORD2] ボリューム、 [BASS] ボリューム
ソロ・スタイルプレイ	○	×	×	[SOLO STYLEPLAY]
ソロ・スタイルプレイ のパターン	○	×	×	[SOLO STYLEPLAY] + STYLEボタン

■ABCボリュームの初期値を変更する場合…

[REC]を押してランプをつけた後、[FULL KEYBOARD][SINGLE FINGER][FINGERED]のどれかを押してABC録音の状態にしてから、行ってください。

MIDI録音の場合のみ記録されるデータ (トラックごとに記録されます。)

データ	初期値	録音中	録音後の 初期値変更	操作
ピッチ・ベンド・ センシティビティ	×	○	×	MIDIのみ
コース・チューン (coarse tune)	×	○	×	MIDIのみ
ファイン・チューン (fine tune)	×	○	×	MIDIのみ



応用機能 (ユーティリティA/B、その他)

83

ここではCVP-87/85/83の応用機能(ユーティリティ・ファンクション)とその他の活用法を紹介します。

他の機器と接続する	84
応用機能A(ユーティリティ A).....	85
応用機能B(ユーティリティ B).....	89
その他の応用機能.....	92

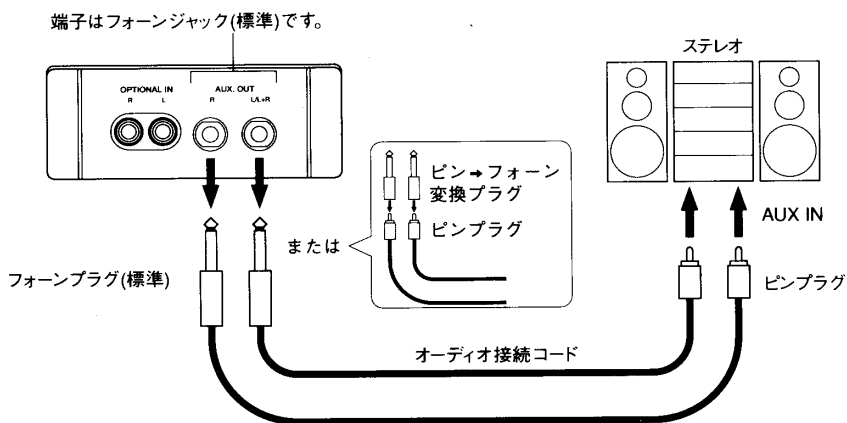


他の機器と接続する

リア・パネルの各端子を使った他の機器との接続方法を説明します。
なお、ヘッドフォン端子についてはP5、EXP. PEDALについてはP37、
MIDI端子についてはP97をご覧ください。

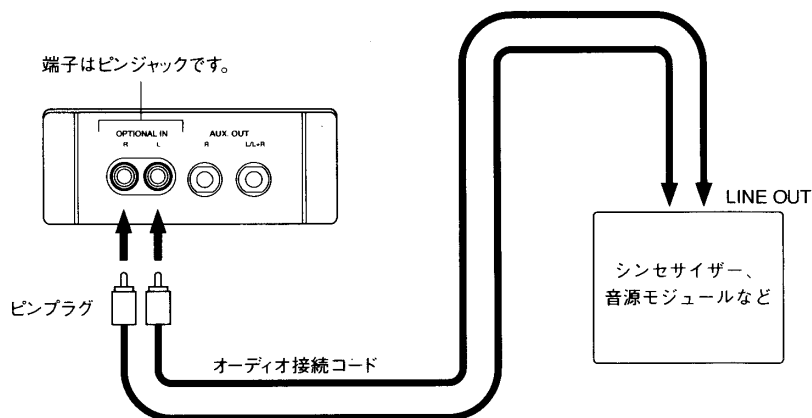
AUX出力端子を使う(CVP-87/85)

オーディオ接続コードを使って下図のように接続すると、ステレオなどからより大きな音を出したり、演奏を録音したりできます。ステレオに接続したときは、[MASTER VOLUME]を半分くらいにして、ステレオのボリュームで音量調節してください。



オプション入力端子を使う(CVP-87/85)

オーディオ接続コードを使って下図のように接続すると、他の楽器や機器の音をCVP-87/85のスピーカーから出すことができます。



■注意...

AUX出力端子から出力した音を、決してオプション入力端子に戻さないでください。

■オーディオ接続コード及び変換プラグは抵抗のないものをお使いください。

■ちょっと覚えておこう...

オプション入力端子から入力した外部機器の音も、CVP-87/85の音と一緒にAUX出力端子から出力されますが、CVP-87/85の音量コントロールやリバーブは効きません。

■オーディオ接続コード及び変換プラグは抵抗のないものをお使いください。



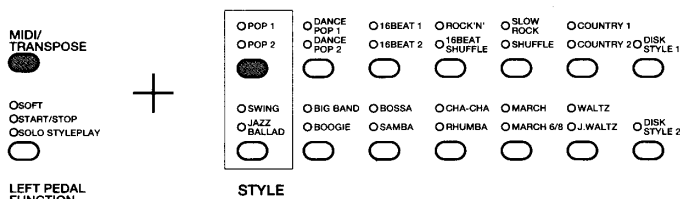
応用機能A (ユーティリティA)

CVP-87では11種類、CVP-85/83では10種類あります。

応用機能Aでは、CVP-87/85/83のいろいろな機能について細かい設定ができます。

設定のしかた

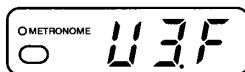
1 [MIDI/TRANPOSE]を押しながら、スタイル[POP1/POP2]または [SWING/JAZZ BALLAD]を何度か押して設定したい機能を TEMPOディスプレイに表示させます。



U-1: タッチ感度の選択



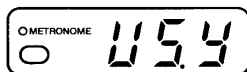
U-2: アカバンニメント・
ボリュームのモード切り換え



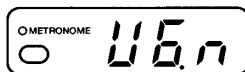
U-3: 鍵盤ごとのチューニング



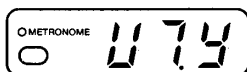
U-4: 標準テンポ自動切り
換えのON/OFF



U-5: シンクロ・スタート自動
設定のON/OFF



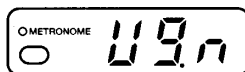
U-6: ランダム全曲リビート
(曲順不同)再生



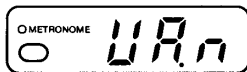
U-7: スプリット以下の
オクターブ・アップON/OFF



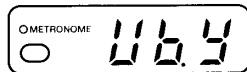
U-8: ミュート機能



U-9: 簡易調性判断機能



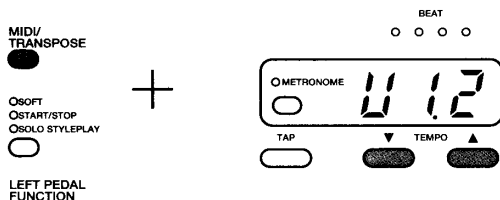
U-10: ダンパー・ペダル連続
／スイッチ切り換え(CVP-87)



U-11: スタンダードMIDIファイル・
モード切り換え

■ R=16進法で10を表わすA
b=16進法で11を表わすb

2 そのまま[MIDI/TRANPOSE]は押したままで、TEMPO[▼][▲]を
押してYES(ON)/NO(OFF)や数値を設定します。





■鍵盤自体の重さは変わりません。

■電源を入れた時は…

いつも自動的に2.ミディアムに設定されます。

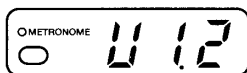
各機能と設定できる内容

U-1: タッチ感度の選択

弾く強さに対する音の出かた(音の強弱の変化の度合い)を、3種類の中から選ぶことができます。演奏する曲や好みによって使い分けてください。



1.ソフト： 比較的音のつぶがそろいやすいタッチです。



2.ミディアム： 標準的なタッチです。



3.ハード： ピアニッシモからフォルティッシモまでダイナミックな演奏ができるタッチです。

U-2: アカンパニメント・ボリュームのモード切り換え

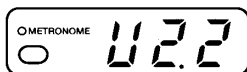
アカンパニメント・ボリュームの働きを次の3種類の中から選ぶことができます。



機能1： 通常のアカンパニメント・ボリューム・コントローラーとして働きます。ABC、ディスク・オーケストラ・コレクション、パフォーマンス・メモリー、その他のデータ再生時でコントロールされるパートはそれぞれ次のとおりです。

ボリューム対応表A

	ABC演奏	パフォーマンス メモリー (ABC 無)	パフォーマンス メモリー (ABC 有)	ディスク オーケストラ	ESEQ SMF (GMモード以外)
RHYTHM	リズム演奏	リズム再生	リズム再生	リズム再生	CH15再生
CHORD 1	コード1演奏	CH4 - 10再生	コード1再生	CH4 - 10再生	CH4 - 14再生
CHORD 2	コード2演奏	CH1、2再生	コード2再生	CH1、2再生	CH1、2再生
BASS	ベース演奏	CH3 再生	ベース再生	CH3 再生	CH3 再生



機能2： 各ボリューム・コントローラーが、モジュレーション／ピッチベンド・アップ／ピッチベンド・ダウン／エクスプレッション・コントローラーとして働きます。

ボリューム対応表B

	コントロール
RHYTHM	モジュレーション
CHORD 1	ベンド UP
CHORD 2	ベンド DOWN
BASS	エクスプレッション



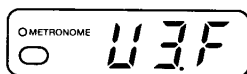
機能3: 各ボリューム・コントローラーが各パートごとのリバーブの深さ設定のコントローラーとして働きます。ABC、ディスクオーケストラ、パフォーマンスメモリー再生時でコントロールされるパートはそれぞれ次のとおりです。

ボリューム対応表C

	ABC演奏	パフォーマンスメモリー(ABC 無)	パフォーマンスメモリー(ABC 有)	ディスクオーケストラコレクション
RHYTHM	リズムの深さ	リズムの深さ	リズムの深さ	リズムの深さ
CHORD 1	コード1の深さ	CH4-10の深さ	コード1の深さ	CH4-10の深さ
CHORD 2	コード2の深さ	CH1、2の深さ	コード2の深さ	CH1、2の深さ
BASS	ベースの深さ	CH3の深さ	ベースの深さ	CH3の深さ

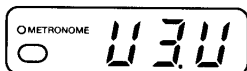
U-3: 鍵盤ごとのチューニング

鍵盤ごとに音程(ピッチ)を微調整できます。CVP-87/85/83は、工場出荷時にはそれぞれの音色に合わせた調律カーブに設定されていますが、この機能を使って好みの調律を作ることができます。



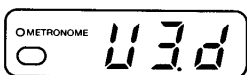
オフ(標準値に戻す):

[MIDI/TRANPOSE]は押したまま、どれかの鍵盤を一度押すと、全鍵盤の音程が標準の0になります。



アップ(音程を上げる):

[MIDI/TRANPOSE]は押したまま、ピッチ・コントロールしたい鍵盤を押すごとに、その鍵盤の音程が約1.2セントずつ上がります。



ダウン(音程を下げる):

[MIDI/TRANPOSE]は押したまま、ピッチ・コントロールしたい鍵盤を押すごとに、その鍵盤の音程が約1.2セントずつ下がります。

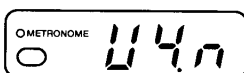
U-4: 標準テンポ自動切り換えのON/OFF

リズム停止中にスタイルを選んだ時、自動的に標準テンポへ切り換わる(ON)か、切り換わらない(OFF)かを設定できます。

自動切り換えON



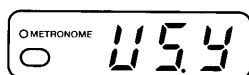
自動切り換えOFF



U-5: シンクロ・スタート自動設定のON/OFF

ABCをONにした時、シンクロ・スタートが自動的に設定される(ON)か、設定されない(OFF)かを選べます。

自動設定ON



自動設定OFF



■電源を入れた時は…

いつも自動的に機能1.に設定されます。

■設定に関して…

ソング・ナンバーディスプレイを見ながら設定します。なお、アップ/ダウンできる音程の範囲は、前述(→P28)と同じ-50セント(表示:-44)~0セント(表示:0)~+50セント(表示:44)です。また、設定した状態はそのままフロッピー・ディスクに保存できます。(→P89)

■電源を入れた時は…

いつも自動的にオフに設定されます。

■電源を入れた時は…

自動切り換えONになっています。

■電源を入れた時は…

自動設定ONになっています。



■デモ演奏の場合は、デモ演奏をスタンバイする前にON/OFFを設定してください。

■電源を入れた時は…
ランダム再生OFFになっています。

■電源を入れた時は…
オクターブ・アップ機能ONになっています。

■電源を入れた時は…
ミュート機能ONになっています。

■電源を入れた時は…
機能OFFになっています。

■電源を入れた時は…
連続可変式になっています。

■CVP-83/85のダンパーペダルは…
ON/OFF・スイッチ式に固定されています。

■電源を入れた時は…
GM音色SMF再生になっています。

■一般SMF再生を設定しておけば…

外部シーケンサー等で本機のパネル音色をつかって録音したSMFディスクを本機のディスク・ドライブで再生する時に便利です。

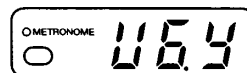
U-6:ランダム全曲リピート(曲順不同)再生

ランダム全曲リピート再生をONにして、デモ演奏やディスク・オーケストラ・コレクションの全曲リピート再生を始めると、曲順不同でリピート再生させることができます。BGM代わりに使うときなどに便利です。

ランダム演奏OFF



ランダム演奏ON



U-7:スプリット以下のオクターブ・アップのON/OFF

スプリット演奏時に低音部の「DRUMS」「BASS」以外の音色が自動的に1オクターブ・アップする機能のON/OFFを設定できます。

オクターブ・アップ機能ON



オクターブ・アップ機能OFF



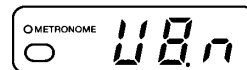
U-8:ミュート機能

ABC演奏時のミュート機能(P43)のON/OFFを設定できます。

ミュート機能ON



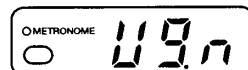
ミュート機能OFF



U-9:簡易調性判断機能

ABC演奏時の簡易調性判断機能(P43)のON/OFFを設定できます。

機能OFF



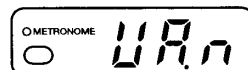
機能ON



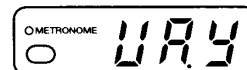
U-10:ダンパー・ペダル連続/スイッチ切り換え(CVP-87のみ)

ダンパー・ペダルを連続可変式で使うか、ON/OFFスイッチ式で使うか選択できます。パフォーマンスメモリーの録音時などはON/OFFスイッチ式で使用するれば、連続可変式で使用した場合に比べてメモリーを節約できます。

連続可変式



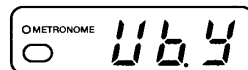
ON/OFFスイッチ式



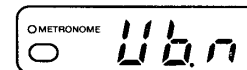
U-11: SMF(スタンダードMIDIファイル)モード切り換え

スタンダードMIDIファイルの再生時に、一般SMF再生かGM音色SMF再生かを選択できます。GM音色SMF再生が設定されていると、どんなSMFデータもGM音源で再生されます。また、一般SMF再生の設定時はSMFデータにGM onメッセージがない限り、パネル音色で再生されます。

GM音色SMF再生



一般SMF再生





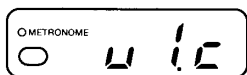
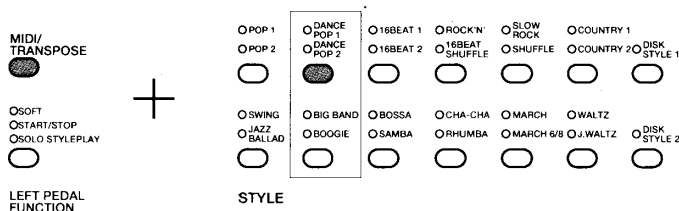
応用機能B(ユーティリティB)

応用機能Bは、主にディスク関係の機能で6種類あります。

操作の手順

1 フロッピー・ディスクをセットし、必要な曲やナンバーを選びます。

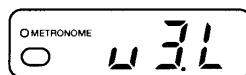
2 [MIDI/TRANPOSE]を押しながら、スタイル[DANCE POP1/DANCE POP2]または[BIG BAND/BOOGIE]を押して使いたい機能を選びます。



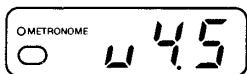
u-1: クラビノーバ
共通音色変換



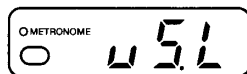
u-2: パネル状態の保存



u-3: パネル状態の再現



u-4: 鍵盤ごとのチューニング
状態の保存

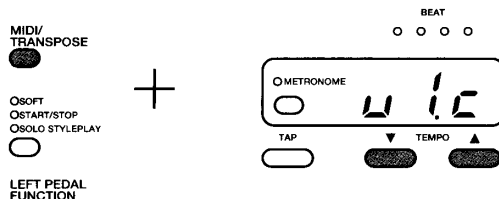


u-5: 鍵盤ごとのチューニング
状態の再現



u-6: 録音データのクオンタイズ

3 そのまま[MIDI/TRANPOSE]は押したままで、TEMPO [▼]か [▲]のどちらかを押して選んだ機能を実行します。



■ちょっと気をつけて…

応用機能Bは、ディスクが入っていないと選べません。

■u-6(録音データのクオンタイズ)に関して…

この機能だけ手順3以降の操作が少し違います。(→P91)



■一度、変換されたデータは...

もとに戻すことができません。あらかじめコピーをしてもとのデータを残しておくと安心です。

また、「u-6(録音データのクオンタイズ)」もできません。

■ディスク・オーケストラ・コレクション、ピアノプレーヤ・ソフト、ディスク・スタイルやプロテクトのかかったディスクは変換できません。

■クラビノーバのモデルによって持っている音色が異なりますので、一部イメージの異なる音色に変換されることもあります。

■CVP-75/65/55/70/50、CLP-705、DOM-30で録音したディスクは、そのままでCVP-87/85/83で再生することができます。(ただし、一部音色やリズム/ABCが異なって再生されることがあります。)

各機能とその内容

u-1(クラビノーバ共通音色変換)

パフォーマンスメモリーで録音したデータ(ディスク上のデータ)を他のクラビノーバで利用できるように、音色配列を変換する機能です。

変換中は、TEMPOディスプレイに変換中の小節が表示されます。変換が終わると自動的にもとの状態に戻ります。

u-2(パネル状態の保存)

現在のパネル上の設定状態をそのままフロッピーディスクに記憶させることができます。記憶中はTEMPOディスプレイが次のように変化します。記憶が終わると自動的にもとの状態に戻ります。



記憶される内容

- ABCのON/OFF
- ソロ・スタイルプレイのON/OFF
- ソロ・スタイルプレイのパターン
- 音色選択
- 手弾きの音量
- スタイル選択
- イントロ
- バリエーション
- テンポ
- RHYTHMボリューム
- CHORD 1ボリューム
- CHORD 2ボリューム
- BASSボリューム
- デュアル/スプリットのON/OFF
- スプリット・ポイント
- デュアル/スプリット時の音色
- デュアル/スプリット時の2音色の音量バランス
- リバーブの選択
- リバーブの深さの設定
- レフトペダル・ファンクションの選択

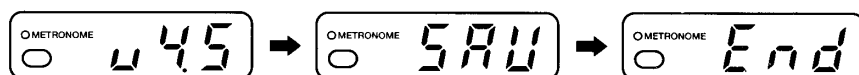
u-3(パネル状態の再現)

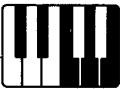
u-2の機能でフロッピーディスクに記憶させたパネル上の設定状態を、CVP-87/85/83上に読み込み再現できます。読み込み中はTEMPOディスプレイが次のように変化します。読み込みが終わるとその設定が再現されます。



u-4(鍵盤ごとのチューニング状態の保存)

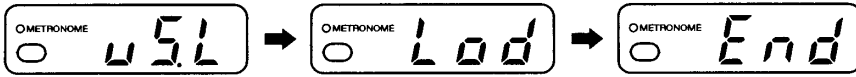
応用機能AのU-3で設定した鍵盤ごとのチューニング状態をそのままフロッピーディスクに記憶させることができます。記憶中はTEMPOディスプレイが次のように変化します。記憶が終わると自動的にもとの状態に戻ります。





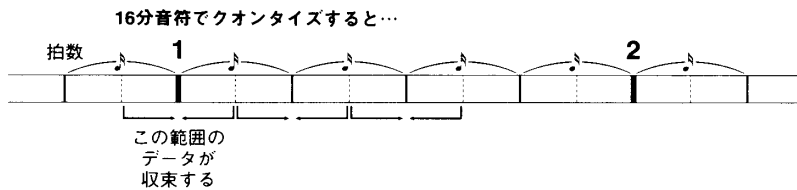
u-5(鍵盤ごとのチューニング状態の再現)

u-4の機能でフロッピーディスクに記憶させた鍵盤ごとのチューニング状態を、CVP-87/85/83上に読み込み再現できます。読み込み中はTEMPOディスプレイが次のように変化します。読み込みが終わると、そのチューニングになります。(応用機能AのU-3「鍵盤ごとのチューニング」のモードが自動的にUまたはdになります。)



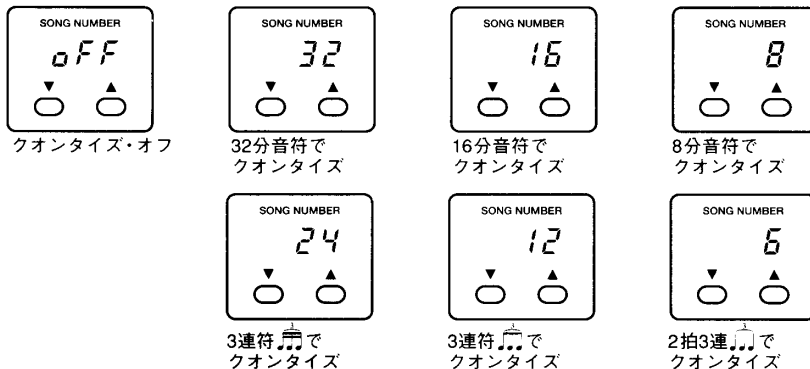
u-6(録音データのクオンタイズ)

録音したデータのタイミングを設定した分解能に応じて、リズムにピッタリ合わせてくれる機能です。



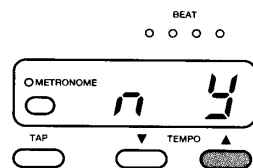
“操作の手順”の1、2を行なった後、下記の操作に進みます。

3 続けて[MIDI/TRANPOSE]は押したままで、SONG NUMBERの[▲][▼]でクオンタイズする分解能を選びます。



4 [MIDI/TRANPOSE]は押したままで、録音するトラックを選ぶときと同じように、[RIGHT/1TR][LEFT/2TR][ORCH/3-10TR]でクオンタイズするトラックを選んで赤色にランプをつけます。

5 [MIDI/TRANPOSE]は押したままで、TEMPOディスプレイの表示が次のようになるので「Y」[▲]を押すとクオンタイズが開始されます。その後[MIDI/TRANPOSE]を離します。



TEMPOディスプレイの「n」[▼]を押すとクオンタイズが中止され、もとの状態に戻ります。

■読み込んだチューニングデータが、そのときCVP-87/85/83本体にあったデータと同一だった場合は、応用機能AのU-3「鍵盤ごとのチューニング」のモードは自動的にONになりません。

■一度録音データのクオンタイズを行なうと...

もとの状態に戻すことはできません。あらかじめコピーをしてもとのデータを残しておく安心です。

■CVP-87/85/83で録音されたデータ以外はクオンタイズできません。また、クラビノーバ共通音色変換されたデータもクオンタイズできません。



その他の応用機能

■GMモードONのデータをもつファイルを再生すると、CVP-87/85/83の音源は自動的にGM System Level 1の音色配列になります。

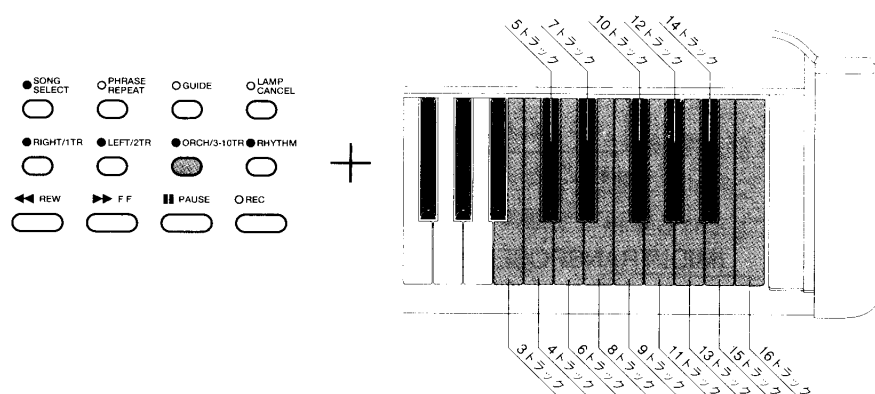
再生するパートを個別にON/OFFする

ディスク・オーケストラをはじめパフォーマンス・メモリー、ピアノプレーヤ、ESEQ、スタンダードMIDIファイルの再生するパートをひとつひとつON/OFFすることができます。

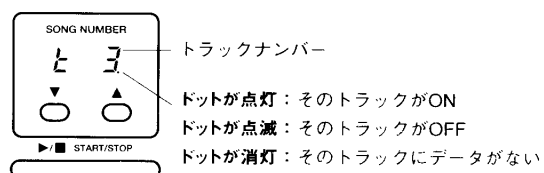
[RIGHT/1TR] [LEFT/2TR] [ORCH/3-10TR] [RHYTHM] のそれぞれを押すことによりON/OFFできるパートを示します。

	RIGHT/1TR	LEFT/2TR	ORCH/3-10TR	RHYTHM
ディスク オーケストラ	右手パート	左手パート	オーケストラ パート	リズムパート
パフォーマンス メモリー	1トラック	2トラック	3-10トラック	リズムパート
ピアノ プレーヤ	右手パート	左手パート	—	—
ESEQ SMF (GM以外)	1トラック	2トラック	3-14トラック	15トラック
ESEQ、SMF (GMモード)	1トラック	2トラック	3-9、11-16 トラック	10トラック

[ORCH/3-10TR]を押しながら、図の対応する鍵盤を押すと、それぞれの3-10トラックのON/OFFが切り換えられます。ESEQ、スタンダードMIDIファイルは3-16トラックのON/OFFが切り換えられます。



対応する鍵盤を押した後、[ORCH/3-10TR]を押している間、次のように SONG NUMBERディスプレイにトラックのON/OFF状態が表示されます。



CVP-87では、[ORCH/3-10TR]を押している間、それぞれのパートに対応する鍵盤ガイドランプがON/OFFの状態を表示します。

点灯：そのトラックがON
点滅：そのトラックがOFF
消灯：そのトラックにデータがない



マイ・レパートリーをつくる

ディスク・オーケストラをバックに自分の演奏を録音することができます。
ディスクオーケストラのオーケストラとリズム・パートを別のディスクにコピーすることができます(右手パートと左手パートは自動的にはずしてコピーされます)のでこれに合わせてメロディパートを自分の演奏で録音すると、自分だけのレパートリー(マイ・レパートリー)ができあがります。

- 1 74ページの方法で、ディスク・オーケストラ・コレクションのオーケストラとリズム・パートを別のディスクにコピーします。
- 2 SONG NUMBERの[▼][▲]でコピーしたソングを選択します。
- 3 音色ボタンで、自分で演奏する音色を選びます。
- 4 [REC]を押したあと、録音するトラック[RIGHT/1]または[LEFT/2]を選びます。
- 5 [▶/■ START/STOP]で録音をスタートします。ディスク・オーケストラに合わせて、右手パート、左手パートを演奏してください。
- 6 [▶/■ START/STOP]または[REC]を押して録音を終了します。

■ちょっと気をつけて…

ディスク・オーケストラをコピーして作ったマイ・レパートリーをさらに別のディスクにコピーすることはできません。



マルチ・トラック録音

シーケンサーやコンピューターなどで多重録音したデータを、MIDIを使ってCVP-87/85/83のディスクに録音することができます。

1 MIDI接続する

送信側の機器(シーケンサー等)のMIDI OUTと、CVP-87/85/83のMIDI INをMIDIケーブルでつなぎます。CVP-87/85/83には録音用のディスクをセットしておきます。

2 MIDIクロックを外部に設定する

[MIDI/TRANPOSE]を押しながら、ボイスの[ORGAN]を押してそのランプを点灯させます。これでCVP-87/85/83は外部からのMIDIクロックによってコントロールされます。(→P99)

3 ソング・ナンバーを選ぶ

SONG NUMBER[▼][▲]で録音するソング・ナンバーを選びます。

4 マルチ・トラック録音をスタンバイする

[MIDI/TRANPOSE]を押しながら[REC]を押すと、マルチトラック録音がスタンバイされます。これで各トラック(1~15)が送信側のMIDIチャンネルのナンバーと一致して、同時に録音される状態です。(MIDIチャンネル1で送られてくるものがトラック1へ、MIDIチャンネル2で送られてくるものがトラック2へ・・・それぞれ同時録音されます。)

5 拍子とテンポを設定する

スタイル・ボタンで、録音するデータに合う拍子(4/4、3/4等)を持ったスタイルを選び、TEMPO[▼][▲]で録音するデータに合うテンポを設定します。

6 録音スタート/ストップ

送信側の機器(シーケンサー等)で再生をスタートすると、同期して録音が始まり、再生が終わると自動的にストップします。

■録音について...

シーケンサーで録音されていたプログラム・チェンジがそのまま録音されますので、CVP-87/85/83の音色ナンバーに合うようにあらかじめシーケンサー側でCVP-87/85/83の音色ナンバーに合うように録音しておいてください。シーケンサー側のMIDIチャンネル15のパートがリズムトラックになりますので、あらかじめキーボード・パーカッションのノート・ナンバーに合わせておいてください。